

平成29年度 第1回 鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【開催日時】：平成29年5月8日（月） 午後6時30分から午後7時20分まで

【開催場所】：教育委員会2階会議室

【出席者】：審議会委員12名

阪根委員、朝田委員、川上委員、久次米委員、黒濱委員、先田委員、
佐藤委員、徳永委員、藤田委員、山本委員、湯地委員、米崎委員
鳴門市7名

安田教育長、大林教育次長、竹田教育総務課長、竹下学校教育課長、
事務局3名

傍聴者 なし

○次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事
 - (1) パブリックコメント実施結果について
 - (2) 第二期鳴門の学校づくり計画（案）について
 - (3) 答申書（案）について
- 4 審議会から答申
- 5 教育長あいさつ
- 6 閉 会

○会議資料

次第

- 【資料1】 鳴門市教育振興計画審議会委員一覧（H29.4.1現在）
- 【資料2】 平成28年度第5回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要（前回会議録）
- 【資料3】 パブリックコメント実施結果
- 【資料4】 第二期鳴門の学校づくり計画（案）
- 【資料5】 答申書（案）

○会議概要

- 1 開会
 - 2 阪根会長があいさつを行った。
 - 3 議事
- 議事（1）パブリックコメント実施結果について
事務局より、資料3に基づき説明した。

会 長

パブリックコメントについて、一つ目の「再編はもう避けて通れないのではないか、それをはっきりと明記すべきではないのか」という意見については、再編の状況について明記しているので、この方の意見は反映していただいた。二つ目の「幼小中一貫教育の推進というが、私立の認定こども園もあるので、果たして幼稚園の子どもが減った場合はどうな

のか疑問である」という意見については、今後認定こども園も含めた円滑な接続について、当然市長部局との連携を図らないといけないので、参考にさせていただき意見とした。三つ目の「幼小中一貫教育というのは、ちょっと軽々しくないか、まずは小中一貫教育を先に見据えた方がいいのではないか」という意見だが、我々としては、鳴門市の幼稚園が持つ特色というものがあるので、やはり幼小中一貫教育が鳴門市の特長であろうということで、今後の参考にさせていただきたいとした。今後の再編について、まずはしっかり考えてほしいという前向きな意見で、非常にありがたいパブリックコメントであったと思う。以上について、皆さんの意見があればお伺いしたい。

委員 特に意見なし

議事（２）第二期鳴門の学校づくり計画（案）について

事務局より、資料４に基づき、計画案について前回の素案から変更箇所がない旨、説明した。

会長

我々が審議してきたものに対して、今回のパブリックコメントとの整合性があったということで、変更点はなかったということである。これまでの審議を振り返って、意見あるいは最終の確認等をいただきたい。

F委員

パブリックコメントにもあった幼小中一貫教育だが、鳴門市では、地域の幼稚園を卒園した園児達そのまま地域の小学校に入って、プラス若干数の新しく入ってきた児童がいて、そういう意味では、すでに幼小中一貫というような感じではあるのかなと思う。私もはじめは、分かりにくいことや初めて聞くようなこともあったが、今回審議会に参加し、今後の教育について、より考えていけるようになったと思う。

L委員

学校再編については、将来の子ども数とか予測されているが、５年先、１０年先になると分からないところもあるので、柔軟に保護者の意見、地域の人の意見を聞きながら、学校再編をせざるをえない状況だと思う。

幼稚園については、鳴門市は昔から１小学校１幼稚園の形をとってきている。いいところは残しつつ、国の施策で認定こども園が増えてきている状況に柔軟に対応してほしい。幼稚園と認定こども園の差がつかないように気を付けつつ、幼小中一貫教育に力を入れればいいと思う。

J委員

以前、幼小連携で人事交流があったが、幼稚園では養護教諭に来ていただくことを一番希望している。L委員もおっしゃっていたが、差がつかないような幼小連携、認定こども園

と小学校の連携。それぞれの教育保育の内容・質といったものもあると思うが、教育保育の質を高めるということで、両方が歩み寄った研修、その中身も大切になってくると思う。

会 長

J委員がおっしゃったように、私も、体とか健康とかの連携が非常に重要ではないか、そういう視点もこれからの課題だと思っている。

K委員

今回の審議会で第二期鳴門の学校づくり計画の案を策定するにあたり、学識経験者、教育現場の方、保護者の方、私のように行政の立場、様々な立場の方から幅広いご意見をいただいたことは大変有意義だったと思う。教育委員会とも連携しながら、幼稚園・保育所・認定こども園も含めた、就学前教育をよりよいものにしていきたいと感じた。これを機会に今後に生かしていきたいと考えている。

E委員

日頃より鳴門市や教育委員会、先生方が、よりよい学校づくりのために尽力してくださっていることをひしひしと感じている。行政の方や先生方だけではなく、私たち保護者、PTAも今後の子どもたちの学校生活が更によりよいものになるように活動していかないといけないと再認識させていただいた。

G委員

今年鳴門市では認定こども園が増えて、三つになっているが、そこで幼稚園、認定こども園に行くそれぞれの保護者の中で、私の家は幼稚園、私の家は認定こども園といった敵対心ではないが、そういうふうになってしまいがちなところを、計画案17ページに「保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の連携推進」とちゃんと記載していただいているので、保護者としても安心できる。保育所・幼稚園・認定こども園の三つでちゃんと連携して一緒のようなことをしていただければ、一緒のレベルで子どもたちが育って行って、小学校に一緒に上がっていけるのではないかと思う。

M委員

この計画にも出ている幼小中の連携というのは、明神の場合は、幼稚園も明神小学校の敷地内にあるし、運動会も一緒にしている。もともと連携していたところもあると思うが、その上に中学校の連携ということになっていると思う。幼小中の連携に関しては、瀬戸中みたいに、地域のよさを生かしたような少人数、地域の特色を生かした幼小中の連携という方向に持ってってもらい、この学校で育ってよかったと思えるようなシステムを作ってってもらえたらと思う。

I 委員

学校再編については、園児児童生徒が減少していくのが、既にデータから見えているし、市の予算の関係で、学校教育を進める上で再編は致し方ないというのが、現実だと思う。この審議会に出席して、私自身、二点思いがあり、一点目は、計画にも書いてある「より質の高い教育」ということで、今後この学校づくり計画が、実施されるようになれば「より質の高い教育」の中身が今度は問われるのだと思う。鳴門にとっての「より質の高い教育」の独自性がこれから必要であり、郷土愛、創造力、表現力、コミュニケーション力、思考力などいろんな力が必要だが、鳴門のまちをより発展させるような人材づくりが教育の基本だと思う。地域学習やキャリア教育を進める必要もあると思う。

もう一点は、幼小中一貫教育の推進をこのたび大きく打ち出しているが、今までと一緒にではなく、今までの様々な実践から一歩進めた新しい施策の実行が問われるのではないかと思う。

A 委員

私は、幼稚園に関連したことに対してパブリックコメントを出した人の懸念もやっぱり見過ごすことはできないと認識していて、計画案7ページの幼稚園別園児数の推移が認定こども園の開園で変わりつつあるということは、将来もこの変化が加速化していく可能性があり、このプランの状況が大きく変わっていくことが予想される。幼小中一貫教育に関しては、最初、市の原案では小中一貫だけだったが、それを私たちが幼も入れるべきだとして、幼小中一貫にしたと私は理解している。保育の質、教育の質を保証していくという意味では、非常に大切なことだと思う。それにはやはり、計画にも繰り返し述べているように、また市の考えとしてコメントがあるように連携ということが大切であって、認定こども園それから保育園、保育所とも連携して、鳴門市ならではの保育の質、教育の質を考えていき、周囲の理解を得ていくということが大切だと思う。

H 委員

パブリックコメントがお一人ということで、ちょっと少ないかなと、内容が分かりにくいのか、教育に対する関心が低いということはないと思うが、意見を出しにくいということだったのかなと思った。それと学校づくり計画ということで、学校再編が主だったが、教員の勤務時間数が非常に増えていると先日の新聞報道にもあったように、教員の質の向上も含めて、勤務実態の問題といった、そういった面にも触れる必要があったのではないかと思った。

B 委員

審議会の皆さんと話し合いができてとてもよかったと思う。徳島県では、人口減少や、スポーツの振興、学力の向上、食育も子どもの頃からしなければいけないなど、直面する課題が多くある。いろいろな課題が鳴門市にもあるわけで、ICT教育にしても、徳島市は全教室に大型テレビがはいっているが、鳴門は6年、5年だけで、まだ4、3、2、1年には

入っていない。それらも含めて、学校づくりを考えていかないといけないと思う。I委員もおっしゃっていたが、教育の質を高めるために学校をどうつくるかと考えたときに、やはりもう再編は避けられない。複式学級は解消しないといけない。少人数で育った子どももいいところはあるが、変化の激しい社会、グローバル化、少子高齢化、それから高度情報化の社会の中で生きていくのに日本のことだけ考えてはいられない時代だ。子どもたちが将来、生きる力を発揮して幸福生活を築こうと思えば、やはり大勢の中で鍛える方が私はたくましく育つと思う。そういうことを考えたときに、学校再編というものをもう一度、保護者、地域の方も含めて、教育行政、学校現場が真剣に考えていかなければならないと思う。

幼小中の連携強化をどうするかということだが、認定こども園も含めた教職員の交流などについて、具体的にどう進めていくかということを経済委員会がある程度示してそれを現場がやっていく。それから子ども同士の交流、保護者への啓発も必要だと思う。

地域で子どもを育てるという「共育のまち鳴門」を掲げている以上、やはりそれぞれの地域でどうやって子どもを育てるかということを経済会なども一緒に連携していかないとこれからは学校だけではもたない。保護者、PTA、地域の方が地域で子どもを育てるということを考えるために、学校再編をきっかけにして、話し合いの場をどうつくっていくか、そして、できることからどう進めるかということを経済で考えていかなければならないと思う。

会 長

皆さんの意見をいただき、確かにそのとおりでないと、つくづく感じている。

今新聞などで各市の財政グラフが出ているが、ほとんどの住民は関心がないと思う。ところが都会へいくとああいうグラフを出すと非常に真剣に見る読者が多く、たとえば土木費が十パーセントそこそこならまだ分かるが、二十パーセントに迫るなんておかしいとか、そういう議論があるだろうが、なかなかそういったものが出てこない。行政に対する信頼性もあるだろうが、一方でまあ何とかなるだろうという、行政任せの状況にあり、それが、今回のパブリックコメントの少なさだったのかもしれない。じゃあ、我々は、どうアプローチしていくか、鳴門市独特のものはいったい何なのか。たとえば、英語教育を盛んにしたいというのなら、とことんやってみる。鳴門はキャリア教育が非常にしっかりしているんだというなら、それをとことんやってみてもいい。起業家教育をしていく、これも面白い。何か工夫をしていく時代に来たなものすごく感じている。今回小規模化が進んでいる瀬戸中校区も幼小中一貫教育ということでやっているのだから、これからまたいい形で広がっていけばいいと思っている。ぜひ皆さんのお力を借りられたら幸いと思う。

それでは、これをもって、第二期となる鳴門の学校づくり計画について一通りの審議が終了したということで、承認を取らせていただく。本原案で答申してよろしいか。

委 員 異議なし

議事（３）答申書（案）について
事務局より、資料５を朗読した。

会 長

答申案について、意見を伺いたい。（委員意見なし）
これをもって、本日本日予定の議事はすべてを終了し、審議もすべて終了する。

４ 審議会から答申

５ 教育長あいさつ

ただ今、阪根会長から昨年７月に諮問をさせていただいた鳴門の学校づくり計画に対する答申をいただいた。

本市では、少子化により、学校の小規模化が進んでいるが、そうした中で、より適切な教育を子どもたちが受けることができるよう、教育委員会として様々な努力をしていかななくてはならない。いただいた答申の趣旨を十分尊重し、今後十年間の学校再編の方向性を定める第二期鳴門の学校づくり計画を教育委員会において決定したいと考えている。委員の皆様方には、今後とも本市教育の発展に格別のご指導とご協力をお願いしたい。

事務局より、今後の予定について説明をした。

６ 閉会